

問1 床の間や付け書院などの特徴を持つ、後の日本建築の基礎となった様式を何という？

1. 武家造 2. 書院造 3. 寝殿造 4. 数寄屋造

問2 室町時代に浄土真宗の門徒が守護大名を倒し、約100年間にわたって自治を行った場所はどこ？

1. 加賀国 2. 大和国 3. 山城国 4. 伊賀国

問3 室町時代に惣村で村の運営のために行われた、住民による話し合いの集会を何という？

1. 惣領 2. 寄合衆 3. 座 4. 寄り合い

問4 後醍醐天皇が行った政治体制が決裂したことを指す言葉は何？

1. 保元の乱 2. 平治の乱 3. 建武の新政 4. 承久の乱

問5 浄土真宗の信仰で結びついた武士や農民が、加賀国で倒した守護大名は誰ですか？

1. 細川勝元 2. 富樫政親 3. 山名宗全 4. 畠山義就

問6 室町幕府の第3代将軍であり、京都の北山に金閣を建てた人物は誰？

1. 足利義満 2. 足利尊氏 3. 足利義持 4. 足利義政

問7 足利義政の後継者争いをきっかけに発生した応仁の乱は、何年間続いた？

1. 12 2. 15 3. 11 4. 10

問8 室町時代、堺や博多などが大きく発展するきっかけとなった、明との間で行われた貿易を何という？

1. 南蛮貿易 2. 日宋貿易 3. 朱印船貿易 4. 日明貿易

問9 室町幕府において、将軍を補佐するために置かれた幕府の重要役職を何という？

1. 探題 2. 管領 3. 守護 4. 地頭

問10 鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇が始めた天皇中心の政治を何というか？

1. 建武の新政 2. 寛政の改革 3. 天保の改革 4. 明治維新

問11 鎌倉幕府が滅亡した後、後醍醐天皇の政権から離反し、京都に武家政権を樹立した人物は誰？

1. 足利義教 2. 足利義政 3. 足利尊氏 4. 足利義満

問12 室町時代に回数が増え、貨幣経済が浸透するきっかけとなった定期的な市場のことを何という？

1. 問屋 2. 座 3. 仲買 4. 定期市

問13 室町時代、東山文化を代表する建築物である銀閣（慈照寺）を建てた、室町幕府の8代将軍は誰？

1. 足利義政 2. 足利義満 3. 足利尊氏 4. 足利義持

問14 堺の町で、有力な商人たちが組織した合議制の運営組織のことを何という？

1. 年寄衆 2. 会合衆 3. 評定衆 4. 引付衆

問15 京都の北朝と吉野の南朝の対立を終わらせ、南北朝を合体させた室町幕府の第3代将軍は誰？

1. 足利義詮 2. 足利直義 3. 足利尊氏 4. 足利義満

問16 室町時代、京都に慈照寺銀閣を建てて、簡素で気品ある文化の発展を支えた将軍は誰？

1. 足利尊氏 2. 足利義満 3. 足利義政 4. 足利義教

答え合わせ・解説

問1	答え 2 書院造	書院造は、床の間、違い棚、付け書院といった装飾的かつ機能的な要素が備わっているのが最大の特徴です。畳を部屋全体に敷き詰めることが一般的となり、武家だけでなく後に公家や寺院にも取り入れられました。これにより、現在私たちが生活する「和室」の空間デザインが完成しました。
問2	答え 1 加賀国	加賀国では、蓮如の布教によって浄土真宗が深く浸透しました。門徒たちは結託して守護大名を追放し、その後約100年間にわたり、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるほど、民衆自身による自治を実現しました。
問3	答え 4 寄り合い	「寄り合い」は、村の運営に関わる重要な事項を決定するための集会です。ここで村独自のルールである「惣掟」を定めたり、年貢の配分や用水路の管理などについて話し合ったりしました。農民たちは対等に近い立場で議論に参加しました。
問4	答え 3 建武の新政	建武の新政では、公家を重んじ武士を軽視する政策が行われました。その結果、土地を失うことへの不安や恩賞への不満を抱いた武士たちの支持を失いました。混乱の中で足利尊氏が離反し、新たな政権へと移行することになりました。
問5	答え 2 富樫政親	当時の加賀国では、守護大名の富樫政親が教団の勢力を抑えようと対立を深めました。これに対し、1488年に門徒らが蜂起し、守護所を襲撃して政親を自害に追い込みました。
問6	答え 1 足利義満	義満は京都の北山に別荘として北山殿を造営し、その象徴として金閣を建てました。金閣は伝統的な公家文化と新興の武家文化を融合させた豪華な建物です。この建築様式は、義満の時代の文化を象徴するものとなりました。
問7	答え 3 11	この戦乱は11年もの長期間にわたって続きました。京都の主要な施設や町並みはことごとく焼き払われ、幕府の権力は形骸化しました。全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、地方にも戦火が広がり、秩序が大きく崩れました。
問8	答え 4 日明貿易	日明貿易は、当時の日本にとって中国の文物を輸入する重要な手段でした。明側からは銅銭（永楽通宝など）や絹織物、書物などが輸入され、日本からは金、銀、工芸品などが輸出されました。この利益によって堺や博多の都市が繁栄し、経済的に自立する大きな原動力となりました。
問9	答え 2 管領	「管領」は幕府の最高職であり、将軍に代わって政務を取り仕切る重要な役割を担いました。特に力のある有力な守護大名の家柄（斯波、細川、畠山氏など）から選ばれることが多く、幕政の実権を左右する大きな影響力を持っていました。
問10	答え 1 建武の新政	後醍醐天皇は、天皇中心の政治を行うために、公家を重用し武士の意見を十分に聞き入れない政策を行いました。京都を中心としたこの政治体制は、武士の土地の権利を不安定にしたため、多くの武士の不満を買う結果となりました。このため、わずか2年半ほどで崩壊しました。
問11	答え 3 足利尊氏	足利尊氏は有力な武士団を率いて後醍醐天皇に背き、光明天皇を立てて京都に新しい武家政権を樹立しました。これが室町幕府の始まりです。
問12	答え 4 定期市	定期市は、3のつく日や6のつく日など、決められた日に地域の人々が集まって開かれました。農産物や手工業製品、そして中国から輸入された品々が取引され、流通拠点として商業が飛躍的に発展する場となりました。
問13	答え 1 足利義政	足利義政は、政治への関心を失う一方で、禅宗の思想の影響を受けた「わび・さび」という独特の美的感覚を深めました。自らの山荘として慈照寺（銀閣）を建て、そこを拠点に東山文化を花開かせました。
問14	答え 2 会合衆	会合衆は、堺の有力者による合議組織です。彼らは町を運営するための相談役や意思決定者として活動し、堀をめぐらせるなどの防衛策を講じたり、町独自の法を運用したりしました。この組織により、堺は「日本で最も自由な都市」としての地位を確立しました。
問15	答え 4 足利義満	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、力のある守護大名を抑え込むと同時に、1392年に南朝の天皇から北朝の天皇へ位を譲らせる形で南北朝を合体（統一）させました。
問16	答え 3 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘を構え、茶の湯や華道、連歌などの文化的な活動を奨励しました。義政自身が理想とした「わび・さび」という美的感覚が、その後の建築や庭園のデザインに反映されました。